

## 2 / 2 (金)

### 安息日の主

— マタイによる福音書一二章一〜八節

「私が求めるのは慈しみであつて、いけにえではない」とはどういう意味か知っていたら、あなたがたは罪もない人たちをとがめなかつたであらう。人の子は安息日の主なのである。(7、8)

聖書が大切にしてきた安息日の本来の目的は、一週に一度、人々を仕事の奴隷から解放し、神を礼拝させることにありました。これは神が人の益のために定められたものでした。ところがフアリサイ派の教えは、「安息日には、あれはしてはいけない、これもしてはいけない」と、律法に付随する細かな規定を守ることばかりに囚われて、人々を解放するはずの安息日を反対に人々を縛りつけ、命を奪うものにしてしまったのです。これを見てイエスは、「人の子は安息日の主なのである」と宣言されました。律法の規定を守ることはかりに囚われて、本来の意味を見失っていた人々に、イエスを主として礼拝することこそ、安息日の目的であると教えられたのです。人間にとっての眞の安息は、まことの神を礼拝するところから生まれます。礼拝こそ、人に命を与え、人を生かすものなのです。